自発的，自治的に活動する生徒の育成
― 学級活動（１）の学習過程を踏まえた計画的な実践を通して ―

浦添市立浦添中学校　佐藤　美穂

【要約】

学級活動(1)において，学習過程を踏まえた話合い活動を通して，互いに理解し合い協力して，問題解決する力を身につけさせることで，生徒の自発的，自治的な活動の育成を目指したものである。

キーワード　□学習過程　□自発的，自治的な活動　□実践意欲　□協働的な活動

Ⅰ　テーマ設定理由

近年，少子化・人口減少，グローバル化の進展，格差の固定化と再生産など，多様な社会課題が多く，将来の予測が困難な時代である。このように，社会が激しく変化する中で，将来を担う子どもたちには，様々な変化に積極的に向き合い，他者と協働して解決することや，一人一人が持続可能な社会の担い手になることが求められている。

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の特別活動編においても，子どもの自主的，自発的な活動を一層重視することにより，よりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育てる必要性が明記されている。特に，自発的，自治的な話合い活動を通して，互いに理解し合い，高め合いながら，よりよい集団生活を築くことが，健全な生活や社会づくりの実践力を高められるとしている。また，本県の学力向上推進施策においても，「自立した学習者」育成を支える４つのポイントの１つに，「安全・安心な風土の醸成」が挙げられており，学級活動における，自発的，自治的な活動や学校行事などに取り組むことを通して，集団への所属感や生活上の規範意識を高めることが，学級が安全・安心な風土の醸成に必要だと示されている。

本学級の実態として，7 月に実施されたアンケートの結果より，「あなたの学級では，学級生活をよりよくするために学級会で話し合い，互いの意見のよさをいかしている」の肯定的な意見は，97.1％と高い。しかし，「学級みんなで話し合いで決めたことなどに協力して取り組んで，達成感を感じたことがある」の肯定的な意見は 77.1％となっている。その結果から，話合い活動はしているが，話合いで決めたことを協働的に実践することに課題があることが伺える。これまでの学級活動（１）の実践を振り返ってみると，事前の打ち合わせの時間確保ができず，教師が主導する話し合いだったり，突発的に話し合いをしたりして，学級活動（１）の学習過程を計画的に実施することができなかった。そのため，小学校で積み上げた活動経験を生かす機会が不足していたり，協働的な活動ができなかったりと，自発的，自治的な活動に結びつかなかった。

そこで，特別活動の学級活動（１）において，学習過程を踏まえて計画的に実践することで，課題を自分事と捉え，解決に向け自分の考えや意見を持ち，目的意識が高まった自発的，自治的な話合いになるであろう。また，議題に沿った根拠を基に合意形成を図り，自分の考え意思を持つことで，実践意欲が高まり，自発的，自治的に活動すると考える。そして，これらの一連の学習過程の体験活動から，所属感や連帯感を味わい安心・安全な学級となるであろう。

以上のことから，本研究では，学級活動（１）の学習過程において，計画的な実践を積み重ねることで，自発的，自治的に活動する生徒が育成されるだろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　めざす子ども像

学級生活をよりよくするために，多様な他者と協働し，自発的，自治的に活動する生徒

Ⅲ　研究目標

特別活動の学級活動（１）において，一連の学習過程を踏まえた実践を通して，学級生活をよりよくするために話し合い，多様な他者と協働する生徒の育成について研究する。

Ⅳ　研究仮説

１　基本仮説

特別活動の学級活動（１）において，学習過程の一連の流れを計画的に実践し，これらを積み重ねることで，自発的，自治的に活動する生徒が育成されるだろう。

２　作業仮説

(1) 学習過程を踏まえた事前活動において，議題設定の工夫や学級会ノートの活用を行うことで，学級の諸問題を自分事と捉え，自分の考えを持つことになるであろう。

(2) 学習過程を踏まえた本時の活動から事後の活動において，提案理由に沿った根拠をもとに折り合いをつけ，よりよい合意形成を図ることで，実践意欲が高まり，協働的に取り組むであろう。

Ⅴ　研究構想図

≪めざす子ども像≫
学級生活をよりよくするために，多様な他者と協働し，自発的，自治的に活動する生徒

≪研究テーマ≫
自発的，自治的に活動する生徒の育成
―　学級活動（１）の学習過程を踏まえた計画的な実践を通して　―

≪研究目標≫
特別活動の学級活動（１）において，一連の学習過程を踏まえた実践を通して，学級生活をよりよくするために話し合い，多様な他者と協働する生徒の育成について研究する。

≪研究仮説≫

≪基本仮説≫
特別活動の学級活動（１）において，学習過程の一連の流れを計画的に実践し，これらを積み重ねることで，自発的，自治的に活動する生徒が育成されるだろう。

≪作業仮説（１）≫
学習過程を踏まえた事前活動において，議題設定の工夫や学級会ノートの活用を行うことで，学級の諸問題を自分事と捉え，自分の考えを持つことになるであろう。

≪作業仮説（２）≫
学習過程を踏まえた本時の活動から事後の活動において，提案理由に沿った根拠をもとに折り合いをつけ，よりよい合意形成を図ることで，実践意欲が高まり，協働的に取り組むであろう。

≪研究内容≫
１　自発的，自治的な活動　　２　学級活動で育成を目指す資質・能力について
３　学級活動（１）の学習過程と活動内容　　４　学級活動（１）の計画的な実践に向けて

授業実践・評価

成果と課題

Ⅵ　研究内容

１　自発的，自治的な活動

(1) 自発的，自治的に活動する生徒とは

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説の特別活動編（以下解説特活編）において，「自発的，自治的な活動」とは，「目的をもって編制された集団において，生徒が自ら課題を見いだし，その解決方法などについて合意形成を図り，協力して目標を達成していくもの」とある。学級を一つの集団と捉え，合意形成の場を話合い活動と位置付けると，特別活動において，自発的，自治的な活動の一つは学級活動であり，特に，学級活動（１）「学校や学級における生活づくりへの参画」がその中心となると考える。また，河村(2007)は「学級の問題は自分達で解決できる状態。子どもたちは自他の成長のために協力できる状態」を，自治的集団としての姿として示している。このことから，課題解決のプロセスを通して，目的意識を持ち生徒が自ら判断し，学級のために協働する体験を積み重ねることで，自治的集団が育成されると捉える。

本研究では，自発的，自治的に活動する生徒を「学級の課題を自分事と捉え，自分なりの意思を持ち合意形成を図り，それに対し学級のために協働的に取り組む生徒」とし，学級活動（１）の話合い活動において研究する。

(2) 自発的，自治的活動における教師の役割

杉田(2009)は，「自治的な活動とは，すべてを子どもに任せることではない」と述べている。また，解説特活編においても，「教師の適切な指導の下に生徒による自主的，実践的な活動が助長され，そうした活動を通して特別活動の目標の実現が目指される教育活動」と示されている。このことから，生徒に一任するのではなく，生徒が自主的に活動の計画を立てて実践できるように，教師が要所でのしかけをすることで，意図的かつ計画的に関わり，生徒と共同的に取り組むことが重要である。

また，解説特活編の学級活動の内容の取扱いにいては，「集団としての意見をまとめる話合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし，それらを発展させることができるよう工夫すること」と述べている。多くの生徒は，小学校において話合い活動を経験してきている。そこで得た経験値を発揮できるように，中学校においても積極的に話合い活動をする必要性を感じる。そのためにも，小学校での取り組み方法や実践の仕方等，小中での連携が不可欠であると考える。例えば，特活コーナーの設置や活用方法，計画委員の実施等，小学校との繋がりを大切にしたい。

２　学級活動で育成を目指す資質・能力について

(1) 柱となる３つの視点

解説特活編において，「特別活動で育みたい資質・能力の柱となっているのが，『人間関係形成』『社会参画』『自己実現』の３つの視点」と示している。そして，杉田(2020)は，「３つの視点を人間の生き方の三原則」として，図１のように説明している。

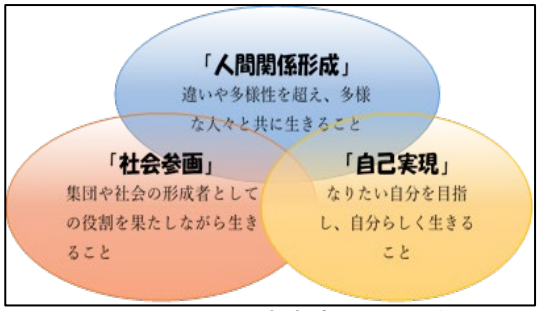


図１　人間の生き方の三原則

椙田(2020)は，「学級活動（１）において，自分もよくみんなもよいとする合意形成の在り方を身に付けさせることが，まさしく社会参画の基礎となり得る」と述べている。このことから，学級活動（１）の活動の取り組みを通して，よりよい生活を目指すために，人と関わることにより，３つの視点を踏まえた資質・能力を育ませるせることが，実社会で生きていくための社会的自立能力を育て，社会参画への希薄化の改善の架け橋となると考える。

(2) 学級活動(１)で育成を目指す資質・能力

解説特活編において，学級活動(１)で育成を目指す資質・能力が，表１のように示されている。この表から，それらが学級活動(１)において，話合いと合意形成，さらには協働した実践から育まれる資質･能力であることがわかる。すなわち，特別活動の特質である「集団活動」と「実践的な活動」のことであり，特別活動の方法原理である「なすことによって学ぶ」活動といえる。そのため，これらを，育むためも，一連の学習過程を踏まえた活動が重要であることがわかる。

表１　学級活動(１)で育成を目指す資質・能力

よりよい生活を築くための**知識・技能**	学級や学校の生活上の諸問題を**話し合って解決すること**や**他者と協働**して取り組むことの大切さを理解し，**合意形成**の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
集団や社会の形成者としての**思考・判断・表現**	学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために**話し合い**，多様な意見を生かして**合意形成**を図り，**協働して実践する**ことができるようにする。
主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする**態度**	生活上の諸問題の解決や，**協働し実践する活動**を通して身に付けたことを生かし，学級や学校における人**間関係をよりよく形成**し，他者と**協働しながら**日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

３　学級活動(１)の学習過程と活動内容

(1) 学級活動(１)の学習過程と育成を目指す資質・能力

解説特活編において，学級活動(１)の学習過程が図２のように示されている。そこで，この一連の学習過程を３つにわけ，どの過程で何を育成すべきかを筆者が整理した(表２)。

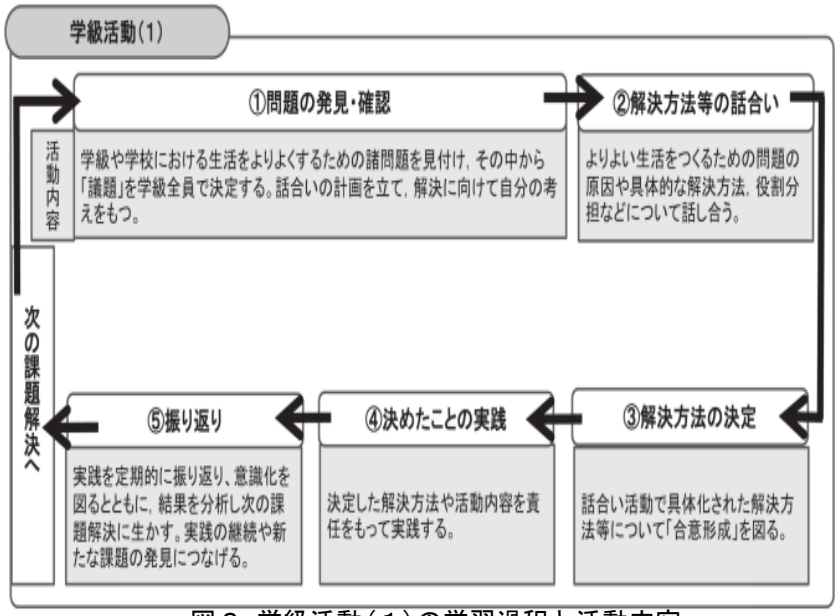


図２ 学級活動(１)の学習過程と活動内容

表２　育成する資質・能力

	① 事前	②③ 本時	④⑤ 事後
知識・技能	諸問題を話し合って解決することの大切さの理解。	合意形成の手順や活動の方法を身に付ける。	他者と協働して取り組むことの大切さの理解。
思考・判断・表現	課題を見出すこと。	解決するための話し合い。多様な意見を生かした合意形成を図ること。	協働して実践すること。
態度	協働して日常生活の向上を目指す人間関係をよりよく形成。		

このことからも，一連の学習過程を踏まえた実践により，目指す資質・能力が育まれることが分かる。特に，態度では，３つの活動を通して育成され，一連の学習過程を踏まえることの重要性を感じる。これらを踏まえ，自発的，自治的な活動ができるような工夫についてまとめていく。

(2) 事前の活動（課題の発見・確認）

事前の活動の充実は，学級の課題が自分事の捉えが，話合いを活性化させ，事後の活動の実践意欲にも繋がると考え，次の３つにまとめた。

① 議題について

みんなで，よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編(以下特活小学校編)において，「学級会では，児童にとって必要感のある議題を設定することが大切」と明記されており，話合う議題が，生徒にとって必要であるか否かで，話合いの価値が決まると捉える。また，議題選定までの流れを，特活小学校編をもとに筆者が表３にまとめた。このことからも，生徒が必

要感のある議題にするためには，日頃から学級の課題を意識するような，多様な場面設定が必要であることが分かる。また，議題は学級全員で話合い解決できる内容にすることで話合いをする価値が深まり，生徒が自分事と捉えるのではないかと考える。そして，議題は全員で決定することを大切にし，その活動を，全員で解決すべき課題であることの確認と，関心の薄い生徒に対してもよりよい学級づくりへの協力という意識付けをするためと捉え，全員で議題の決定をしていく。

表３　議題設定の流れ

諸問題の発見	**生活から問題を見つけるための視点** ・みんなでしたいこと ・学校生活がもっとよくなること ・みんなで作ってみたいこと ・以前の活動の課題になったこと ・みんなにお願いしたい事や，みんなで解決したいこと
議題集め	**多様な場面を設定した議題集め** ・児童のつぶやきを意識付け ・児童が自ら気づき課題箱 ・学級日誌や個人の日記 ・児童の会話や話題 ・短学活で全員で議題提案
↓選定↓	**計画委員会で選定する条件** ・早急な解決を望んでいる ・学級全員が協力しなければならない ・創意工夫の余地がある ・学級や学校生活をよりよいものにする
決定	**学級全員で短学活による決定** ・短い時間で集団決定できそう**→短学活** ・係に任せるとよい**→係へ連絡** ・自分たちだけでは解決できない **→先生と相談**

② 学級会ノートを活用し，自分の考えや意見の整理と共通理解

解説特活編において，「中学生の時期には，一般的に，他人の目が気になる，自分の意見を主張することを躊躇しがちである」と述べている。今までの話合い活動を振り返ると，積極的に挙手をして意見をする生徒は少ない。しかし，意見の出ない話合いは，目的を果たすことができないと考える。多様な意見を出し合うために，事前に意見や考えを整理することは大事な活動あると捉え，それをもとに多くの生徒が発表できるよう準備する。他にも，特活小学校編において，学級会ノートの活用は「学級全員の共通理解を図る」とあり，事前に意見を集約することは，司会が話合いの見通しを立てられることと，議題に向き合い解決に向け話合いに参加する意思表示と捉える。本研究においても，学級会ノートで自分の考えや意見をまとめることで,解決へ向けて自分なりに考える時間とし参加への意欲を高めていく。

③ みんなが経験する計画委員会の編成

解説特活編において，自主的，実践的な活動を生かし教育的な効果を高めるには「学級の実態に即した組織を設け，生徒一人一人が役割を分担し，活動計画を立てて実践する機会を豊富に用意する必要がある」と述べている。このことからも，全員が計画委員を経験することは，小学校の経験を生かす大事な機会であることと，学級会は全員で取り組む活動であることの意識づけ，さらにはいろいろな立場になって考え行動できるとのではないかと考える。本学級でも，4 月に７つの班を司会グループとし，輪番制で計画委員を組んでいる。司会に不安を感じる生徒はいるが，生徒の小学校の経験値を信じ任せていく。

(3) 本時の活動(解決方法の話合い/解決方法の決定)

本時の活動の中心は話合いである。特によりよい合意形成を図るためにも，目指す方向性を明確にし，よりよい集団決定ができるようにするため，次の２つにまとめた。

① ３つの流れを踏まえた話合い

特活小学校編において，「提案理由をもとに，課題解決のための方法を話合い，解決方法の決定を行う」「基本的な話合いの流れは，『出し合う』→『くらべ合う』→『まとめる(決める)』が考えられる」とある。この資料を基に，学級会の流れを筆者がまとめた(表４)。

このことからも，全員参加型を目指し，多くの生徒が発言できるような工夫と，議題に沿った話合いになるように，計画委員と進め方を確認していく。特に，合意形成へ向けて，「比べ合う」に多くの時間がさけるようにし，生徒からの意見が出にくい場合は，ペアやグループでの話合いも取り入れていく。

表４　基本的な話合いの流れ

	出し合う →	比べ合う →	決める（まとめる）
生徒の活動	・提案理由や話合いのめあてに沿って，**自分の考えを発表する。**	・質疑応答から出た意見を**分かり合い**，共通点や相違点を確かめ理解し，**比べる。**	・学級全体としてよりよい解決に**自分の意見を提案する**。 ・合意形成を図り，**みんなの総意**として**決める**。
留意点	・自分の言葉で発表する。 ・賛成や反対意見は述べない。 ・様々な意見を認め合う。	・提案者の想いに寄り添う ・出された意見の分類・整理を行う。 ・提案理由や話合いのめあてなどを視点とする。	・いろいろな意見の違いを認める。 ・みんなが納得する意見を選んだり，意見のよいところを取り入れながら納得したりする方法で，折り合いをつけて合意形成をする。 ・一人一人を大切にした決定をする。

②　よりよい合意形成

杉田(2020)は，「合意形成は妥協か」に対して，「単なる妥協ではない建設的に歩み寄る，譲る，生かし合うなどができることが大事」と述べている。また，稲垣(2020)は，「合意形成を図る話合いは互いの良さを生かし合う活動の時間」と考えている。このことからも，安易に多数決で決めるのではなく，少数意見に注目したり，共通点や相違点を分類・整理したりすることで，議題に沿った，みんなにも自分にもいい合意形成ができると考える。そのため，本研究において，各自が自分なりの考えや意思に根拠を持たせることと，黒板を活用し，意見を可視化することで，よりよい合意形成が図れるように工夫してく。特に，最終的な合意は，みんなの総意であることを常に意識させ，実践意欲に繋がるようにしていく。

(4)　事後の活動(決まったことの実践/振り返り/新たな課題)

①　みんなで実践するための工夫

杉田(2014)は，集会活動(お楽しみ会等)を成功させるためのポイントとして，次の４つを挙げている。「必ず全員が役割分担できるようにする」「活動の見通しを持たせる」「やりがいをもたせる」「失敗に終わらせない」である。これらは，学級活動は集団活動であり，決まったことには全員で協力し取り組むことを意識付けさせるためと考える。また，生徒に役割を与えて，誰もが何かで学級に貢献する機会とするためだと捉える。これらの経験を積み重ねることが，学級活動のねらいでもあり，自治的な活動に結びつくと考える。そして，学級への所属感を高め，自己有用感を育む機会となり，よりよい人間関係を構築していくものだと考えるため，みんなで取り組めるような工夫を取り入れていく。

②　学習過程をサイクルさせる振り返り

杉田(2020)は，振り返りの自己評価は「何ができなかったかではなく，どんなことを頑張れたかの加点評価でいい」と述べ，振り返りの場を「決まったことに対して，自分はどんな頑張りをしたいかを意思決定する場としたい」と述べている。このことからも，個人の振り返りは個人内評価を大切にし，実践へ向けた行動する意思を明確にする場面と捉える。また，学級の振り返りは，達成状況を掲示物で可視化し，学級会の歩みとし価値付けができると考える。そして，達成できなかった場面も貴重な体験とし，そのときの課題を次回の話合いの議題として繋げることで，一連の学習過程のサイクルが循環していくものだと考える。

４　学級活動(１)の計画的な実践に向けて

(1)　学級活動(１)の学習過程をパターン化

須永(2024)は，「学級会指導には『型』がある。(略)。ぶれない『型』を持つという意識が自分の実践を何倍にも高める」といい，「たとえ結果が出なくても続けるくらいの明確な『意思』がないと続けられない」と述べている。学級活動(１)の学習過程には，多くの活動があり，負担感を感じる。そのため，一連の流れをパターン化することで，準備の効率化が図れると考える。本研

究でも，小学校の「話合い活動」を継承しつつ，生徒に任せることを増やすことと，適材適所において，ICT を活用しながら指導していく。

(2) 本時の具体的な流れを示す略案

須永(2024)は，「学級会は，急にはできない」といい，「教科書も指導書もない中で，子どもたちの手で運営する必要があるから」と述べている。このことからも，一連の学習過程を計画的に実践するためには，本時の具体的な流れをまとめた略案を作成する必要性を感じる。併せて，年間指導計画の位置づけが，確実な時間の確保になり，計画的な実践へと繋がると考える。

Ⅶ　授業実践

1　議題名　「仲を深めるための学級レクをしよう」

内容（1）－ア　学級や学校における生活上の諸問題の解決

2　議題について

(1) 生徒の実態

６月の生徒質問紙では「学級の絆」や「友だちの支え」「規範意識」が全国平均より低く，よりよい関係づくりに課題がある。クラスミーティング(話合い活動)では挨拶や声のかけ方，行事の取り組み方について話し合いを行い，よりよい学級づくりを目指してきたが，意見を発表する生徒が少なく，話し合いが円滑に進まないことがあった。指名やグループで相談することで，少しずつ意見を出し合うようになったが，多様な意見を基にした合意形成に結びつかず，実践力に差がみられる。

前回の話し合いでは「3 組がよりよい関係を築くための CCT（クラスコミュニケーションタイム)」を議題とし，意見を出し合い，反対意見がなかった取り組みを実践することに決まった。各班に CCT の流れやお題を考える役割を分担し，様々なアイディアで関係を深めようとする姿が見られた。朝の CCT の時間が短いという意見や，学級レクで仲を深めたいという意見が出ていたことから，コミュニケーションを通して関係づくりをしていきたいと感じている。

(2) 議題設定の理由

今回の議題収集は，朝の活動の時間を活用し，一人一人に議題を提案させた。それらを分類すると，「学級レクの実施」「朝の活動の時間の過ごし方」「授業の受け方」の３つの案が挙がった。計画委員会を開催し，議題選定をするなかで，２学期の終わりということと，まだお互いの関係づくりに課題を感じるということで，「学級レクの開催」を議題にすることにした。そして，帰りの会で，全員の承認を得て議題を設定した。

3　評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することの大切さを理解している。 ②学級や学校の生活上の諸問題について，協働して取り組むことの大切さを理解している。 ③合意形成の手順や活動の方法を身につけている。	①学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだしている。 ②課題解決に向け，話合い，多様な意見を生かして合意形成を図っている。 ③課題解決に向け，協働して実践している。	①学級や学校における人間関係を形成しようとしている。 ②見通しをもったり，振り返ったりすることで，日常生活の向上を図ろうしている。 ③他者と協働して，日常生活の向上を図ろうとしている。

4　事前の活動

日時	生徒の活動 （○何をする　☆対象者）	指導上の留意点	目指す生徒の姿（◎） 【評価の観点】　（評価方法）
11/28 （木） 朝の会	○議題収集　☆全員 「議題提案しよう」	・多様な方法で，学級の課題を見つけられるように工夫する。 ・提案は「今の現状」「どんな解決方法」「その後の姿」の３段落で提案する。	◎学級生活を振り返り，学級のいいところや課題に気づく。 【思考・判断①】（提案書）
11/29 （金） 昼休み	「計画委員会発足・議題選定」 （☆司会団） ○議題の選定 ○提案者の確認	・学級みんなで協力して取り組むことで解決できる議題にする。	・話し合って解決することの大切さを理解している。 【知識・技能①】
12/２（月） 帰りの会	「議題の確認」 ○議題の承認　☆全員	・提案理由で，目的を確認する ・議題は全員で決める。 ・議題を選択させる。	
12/２（月） 放課後	「計画委員会」 ○活動計画作成　☆司会団	・議題に合った柱を立てる。	
12/３（火） 朝の活動	「自分の考えや意思をまとめよう」 ○議題について自分の意見をまとめる　☆全員	・提案理由に沿った意見にすることを確認する。 ・ICT を活用する。	◎話合うことを自分事と捉え，自分なりに意見を持つ。 【知識・技能①】 （学級会ノート）
12/９～10 給食時間	「ランチミーティング」 ○話合いの確認 ☆司会団	・自分の役割を確認する。 ・提案理由に沿った合意形成になるように確認する。	

5　本時の活動

(1) ねらい

①　比べる場面において，他の人の意見を聞き，共感した意見や不安・心配な意見などの発表ができる。

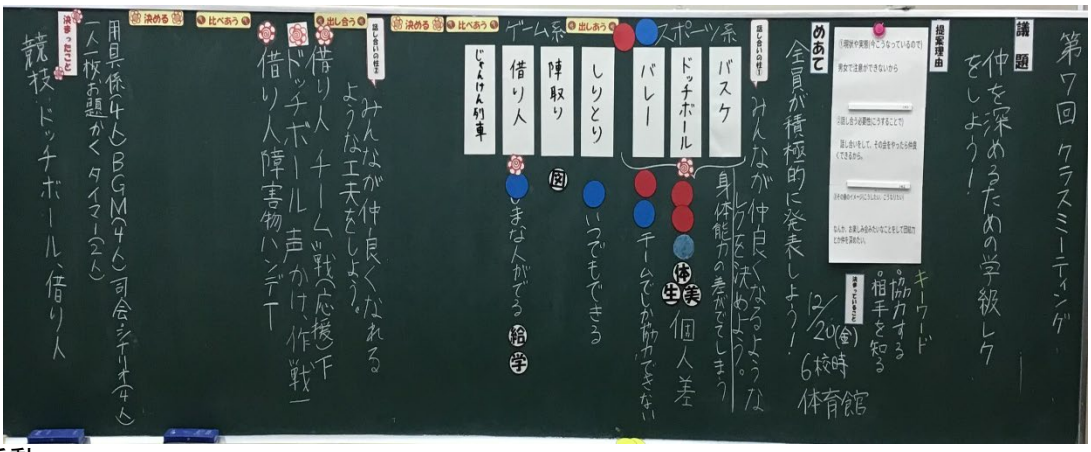
②　学級レクの工夫において，男女の仲が深まるような工夫を考えることができる。

(2) 指導計画

過程		生徒の活動 ※話合いの順序	指導上の留意点	目指す生徒の姿（◎） 【評価の観点】 （評価方法）
導入 （5） 分		１　はじめの言葉 ２　司会グループの自己紹介 ３　議題の確認 ４　提案理由やめあての確認 ５　決まっていることの確認と先生の話	・端末は机の中に入れさせる。 ３組の仲を深めるための学級レクをしよう （今の現状・実態）男女で注意し合えない、 （話合うことで）男女の仲がよくなるような遊び（レク）をすることで （その後のイメージ）男女の仲が深まって残りの学級生活が楽しくなる	
展開 （40） 分	出し合う	６　話合い 柱①：仲を深めるためのレクの内容	・自分の言葉で根拠を持って発表する。 ・できるだけ多くの意見がでるようにする。 ・前もって意見をまとめる。 ・共感できるもの，不安がある意見を学級ノートに記入する。 	◎多様な意見を，提案理由と比べ，自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現②】 （学級会ノート）
	比べ合う	◎賛成意見や反対意見，不安なことなどの意見を聞く 個人→ペア ◎意見を発表してもらう。 ◎少数意見の人にも意見を求める	・司会は，話合いの状況把握をする。 ・設定理由に沿っているかを意識させる。 ・人を傷つける発言や，話合いがそれたときは，教師が介入をする。	

	決める	◎みんなで取り組める内容であるかを確認する。		◎多様な意見を生かし，提案理由に沿った合意形成をしている。 【思考・判断・表現②】
	出し合う	柱②　仲を深める工夫 ２つのキーワードが達成できるような工夫を話し合う。 個人→小グループ 全グループに発表してもらう。	・多くの意見が出るように，どんどん指名して発表してもらう。	
	比べ合う	◎意見を発表する。 ◎提案理由に沿った意見を述べる。	・２つのキーワードにあっているか検討できるようにする。 ・新たに考えた意見でもいいことを伝える。	
	決める	・みんなで実践し，課題が解消できるレクになるようにする。	・提案理由に沿った意見であるか ・複数個の意見を決めてもいい。	
終末 （5） 分	7　決まったことの確認（発表） 8　先生の話 9　振り返り 		・決まったことに，みんなで取り組みをしていくことを確認する。 ・今日の話合いでよかった点や前回との変容を伝え，前向きに取り組むよう助言。 ・決まったことで，自分の成長したいことを，具体的に記入できるようにする。	◎みんなのために協働して取り組もうとしている。 【知識・技能②】 （学級会ノート）

（3）板書



６　事後の活動

日時	生徒の活動 （◎何をする　・どこで　☆対象者）	指導上の留意点	目指す生徒の姿（◎） 【評価の観点】　（評価方法）
12/12～19	◎準備　　☆全員	・みんなで役割分担し準備をする。	◎みんなのために，協働して取り組みをすることで，日常生活の向上を図ろうとしている。【態度③】 ◎課題解決に向けて，協働して実践している。 【思考・判断・表現③】 ◎振り返りをすることで，自分の変容や学級の変容に気づく。 【態度②】 （アンケート）
12/20（金） ６校時	◎「決まったことの実践」 ・体育館　☆全員	・楽しい雰囲気で始められるようにする。 ・決まったことを守って実践できるようにする。	
12/20（金） 帰りの会	◎振り返り （アンケート） ☆全員	・個人内評価と学級全体の評価ができるように工夫する。 ・個人や学級の変容に気付けるようにする。	
12/25（水）	◎掲示物で達成状況を掲示 ☆報道班	・実践を通して変容を可視化し，成長を示す。	

Ⅷ　結果と考察

1　作業仮説（1）の検証

学習過程を踏まえた事前活動において，議題設定の工夫や学級会ノートの活用を行うことで，学級の諸問題を自分事と捉え，自分の考えを持つことになるであろう。

(1) 一連の学習過程の柱となる議題設定の工夫

議題については，２週間前から議題設定の流れに沿って選定を行い，取り組む時間を確保し，諸問題に自ら気づけるように工夫した。また，提案書では，議題の視点を明記したり，３段落形式（現状や実態，必要性，その後のイメージ）で提案させたりすることで，話合う目的を明確にした。集まった議題は，学級生活の問題（◇）や学級の人間関係を深める内容(☆)など，多様な議題が提案された。また，３段落形式で提案したことで，提案者の考えや想いを具体的に知ることができた(表６)。

表６　生徒が提出した提案書から抜粋

提案された議題	現状や実態	話合う必要性	その後のイメージ
☆学級レクをする	男女で分かれたり，同じクラスでもあまり関わらない人もいる。	普段，関わらなかった人とも関わることができる。	普段あまり関わらなかった人とも関わる機会が増える。
☆クラスコミュニケーション	クラスコミュニケーションタイムのときにやっていない人がいる。	全員でクラスコミュニケーションに参加できて仲が深まる。	仲が深まり，相手のことをよく知って授業中の話合いもやりやすくなりたい。
◇学びの時間(朝の活動)の過ごし方	学びの時間(朝の活動)に，勉強をしないで，おしゃべりしていて集中できない。	勉強をすることで，受験に少し余裕を持てる。	みんなが勉強に集中できる時間にしたい。

さらに，「現状や実態」では，学級の人間関係についての課題等の記述から，自ら諸問題に気づいていることがわかる。また，「話合う必要性」では，仲を深めていくことで解決を目指していきたいことが読み取れる。そして，「その後のイメージ」においては，課題解決後の理想的な学級の姿が描かれており，具体的な提案者の想いを知ることができた。これらの活動から，課題を自分事と捉え，それらを話し合うことでよりよい学級にしていきたいという意思が感じ取れる。

以上のことより，議題設定の工夫で，多様な議題が挙がり，手順を踏んだ議題選定をすることで，生徒が求める議題設定ができたと考える。特に，時間を確保したことと，議題設定を全員で承認する機会を設けたことが，全員で解決すべき議題であることの確認と関心の薄い生徒の意識付けとなり，話合いに向けての意識が高まったと考える。

また，３段落形式での提案は，課題の現状，必要性，その後のイメージを明確にしたことが，具体的に提案者の考えや想いを知ることができた。さらに，本時の活動や事後の活動においても，その内容が柱となった活動がみられた。

(2) 学級会ノートで，自分の考えを整理

一連の学習過程の取り組みがわかるような，学級会ノートを作成し，時間を確保して記入させた。このノートの工夫点をまとめ(図３)，事前の活動の記述を表にまとめた(表７)。

これらから，個人のめあての記述では，話合いでの自分の姿を示す生徒が多くいた(波線)。他にも，「仲良くなるためのレクを考えたい」等，目的を達成しようとする意思がみられた。また，自分の意見や考えの欄

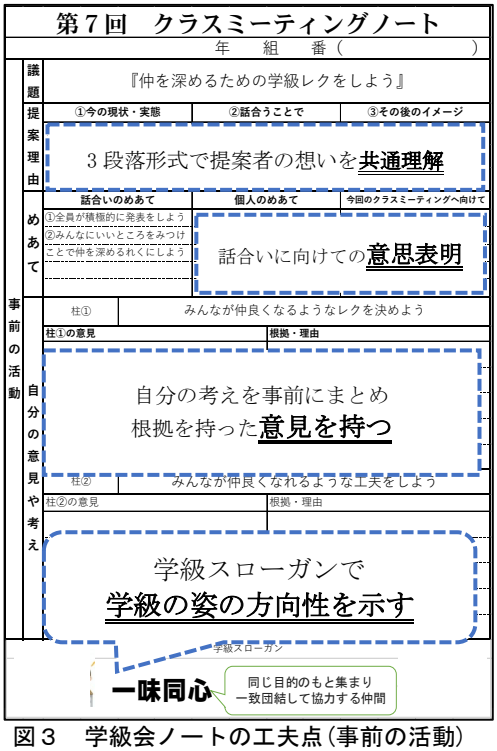


図３　学級会ノートの工夫点（事前の活動）

には，提案理由に沿った根拠をもとに種目を挙げ，工夫では仲良くなる方法を提案していた。さらに，ノートを回収し教師のコメントを入れ，返却した後にも，意見を追記する生徒もおり，話合いに向け，自発的に意見を出そうとしている姿がみられた。

以上のことから，時間を確保し，学級会ノートを記入することで，一人一人が議題に向き合い，それに対する自分の考えをしっかり持つことができたと捉える。その姿から，これらの活動を通し，議題を自分事と捉え，話合いに自発的に参加する意識が高まったと考える。

表７　学級会ノートの事前の活動の生徒の記述

個人のめあて	
・自分の意見を持ち，友達と話しあって参加する。 ・１回は自分の意見を発表する。 ・クラスのことを思った意見を考え，積極的に意見を出す ・自分の意見と根拠・理由をしっかり持って話し合いに参加する。	
柱①で出た根拠	柱②で出た工夫
・協力できる ・相手のことを知る ・苦手な人も楽しめる ・思いやる ・みんなでできる ・人と関われる	・いつも話さない人とチームを組む ・男女混合 ・男女が関わるお題 ・作戦を話合う ・声を掛け合う ・異性を連れてくる

(3)　自治的な話合いの流れを確認する計画委員会

計画委員会は，昼休みや放課後，給食時間を活用して２回実施した。１回目は日程の確認と議題選定を行い，選定する条件に沿って，学級がよりよくなるような議題を選んだ。２回目は活動計画を立て，合意形成の方法と留意点を確認した(図４)。「意見が出なかったら当てる」や「班での話合いを中心に意見を取る」などの工夫をしていた。また，「反対の人の意見も聞く」など，自治的な話し合いにするための工夫もした。また，準備のために実行委員会が必要であることを提案するなど，小学校の経験が垣間見られた。

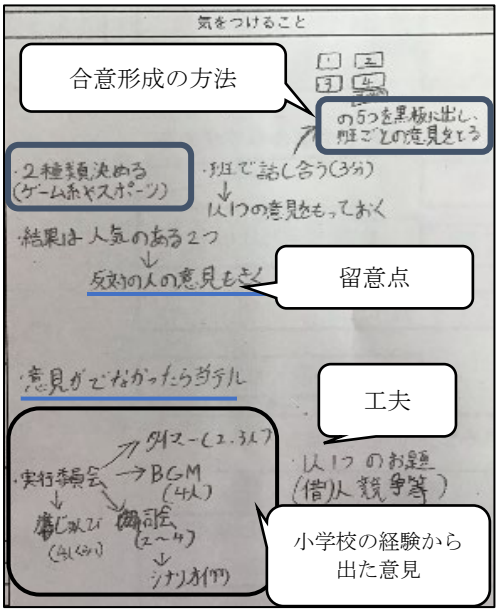


図４　司会担当の活動計画

以上のことから，計画委員会の開催は，計画的な活動を促し，生徒の意見を話合い活動に反映させることができると考える。また，自治的な話合いになる工夫の吟味ができ，先に確認したいことなどは，短学活等利用し確認することで，スムーズな話し合いになった。

これらのことから，学習過程を踏まえた事前活動を行ったことが，自分たちの求める議題となり，議題を自分事と捉えることができたと考える。また，学級会ノートの活用で，提案者の想いを共通理解し，自分の考えを持ったことが，話合いに参画する意欲となり，その後の活動へと繋がっていった。

２　作業仮説（２）の検証

学習過程を踏まえた本時の活動から事後の活動において，提案理由に沿った根拠をもとに折り合いをつけ，よりよい合意形成を図ることで，実践意欲が高まり，協働的に取り組むであろう。

(1)　提案理由に沿った合意形成

合意形成に向けて，提案理由の掲示と合わせて，「協力する」「相手を知る」の２つのキーワードを提示し，基本的な話合いの流れを意識した話し合いをした。また，発表が苦手な生徒が多いため，班での話し合いを中心に進めた(図５)。その中でも，挙手で意見を求める場面を設

図５　班で話し合う様子

定することで，個人の意見も尊重できるようにした。

その際の話合いの様子を，表にまとめたものが表８である。主に，班での意見が多くみられるが，挙手の時間を確保したことで，所々，個人（Ｓ）で意見を述べる生徒もおり，意欲的に発言する姿が以前よりみられた。また，反対意見（△）を主張し合えていることから，いろいろな立場からの意見の交流がみられ，よりみんなが楽しめる内容にしたい想いが伺える。

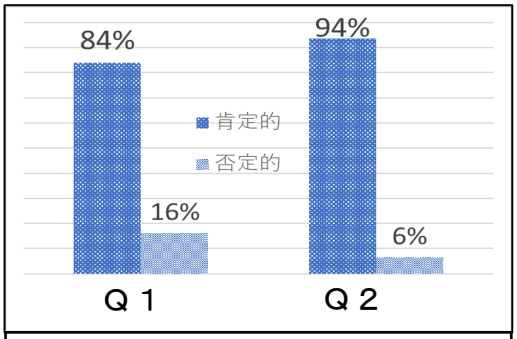
さらに，事前の活動やキーワードを設定したことで，意見の根拠には，みんなでの取り組みや仲を深めることを意識した意見が多くあり，目的意識を高められたと考える。

合意形成に向けては，班での投票で決めたが，少数意見派から反対意見が出たため，再度，班での話し合いを行い，票を取り直した。それは，安易な多数決にならないようにするため，歩み寄りを検討することで，みんなが納得できるようにした。これらの活動が，みんなにとっても，自分にとってもいい合意形成に繋がったと考える。

表８　本時の活動での話合いの様子

（○賛成意見　△反対意見）

Ｇ１：バレー○→相手を思いやれる。
ラリーを続けることで，声かけできる。
一緒に目標に向って頑張れる。
目標を達成できたら嬉しい。
Ｇ２：スポーツ系△→身体能力の差がでる。
Ｇ３：ドッチ○→みんなでやることでチームワークが深まる
Ｇ４：しりとり△→体育館を使わずにいつでもできる。
Ｇ５：バレー△→チーム内でしか仲良くなれない。
Ｇ６：ドッチ△→小学校にやったことがある。
司会：他に賛成・反対意見はありませんか？
Ｓ１：質問→陣取りの詳しいルールを教えてほしい。
―班で２分の話合いで各班２票を投票―
【結果：ドッチボール：3票バレー：1票陣取り：3票　借り人：4票】
司会：他に意見はありませんか？
Ｓ２：ドッチ△→学年レクでもやったし，反対意見ででた個人差で影響があるから。
司会：この意見に対し，何かありますか？
Ｇ４：バスケに変更したい。
Ｇ３：ゲーム系だとチームワークが深まらないからスポーツ系がいい。
司会：反対意見に意見がある人は発表してください。
Ｓ３：借り人競争△→全員でやらないので，暇な人が出てくる。6年生のことにやってそう感じた。
―班で再度話合い，各班１票を投票―
【結果　借り人：2票　陣取り：1票　ドッチボール：3票】
司会：陣取りの図書班さん意見をどうぞ（何も発表がなかった）
司会：不安な点は柱②の工夫で改善していくことで，借り人競争とドッチボールに決定でいいですか？
承認の拍手をお願いします。【決定】



Ｑ１　キーワードを意識して発言をしている
Ｑ２　キーワードや提案理由に沿った合意形成ができた

図６　キーワードについてのアンケート結果

さらに，キーワードについてのアンケートの結果，大多数の生徒がキーワードや提案理由に沿って合意形成ができたと回答している（図６）。これらは，事前の活動である，学級会ノートの活用と班での話合いの成果だと考える。そのため，一連の学習過程を踏まえることの大切さがわかる。

以上のことから，基本的な話合いの流れに沿って話合うことと合意形成の工夫で，生徒の自発的な発言に繋がったと考える。また，みんなが納得できるような合意形成の工夫が，自治的な話合い活動となった。

(2) 協働的な活動をする工夫

実践へ向けて，全員で役割分担ができるよう，様々な役割を考えた（表９）。これらは，計画委員会で生徒が予想したものに，新たに付け加えた。多くの生徒が，自分で選んだ担当のため，自主的に準備に取り組む姿がみられ，話合いで出た意見を配慮した活動をしていた。

表９　役割分担一覧

役割の項目
○用具の準備　○ＢＧＭ ○司会・シナリオ作成 ○あいさつ　○レクの名称を考える ○ルールを決める　○お題係 ○ルールの表示作成○タイマー ○グループ決め補助

特に，ルール決めでは，話し合いで挙がった，反対意見や提案理由に沿った工夫を考え，ルールに取り入れていた。他にも，学級レクの当日には，自ら進んで実況中継を提案して盛り上

げたり，作戦などを男女で相談する姿が多くみられたりと，レクの目的を果たすための創意工夫をしていた。また，実践後の振り返りにも，「協力できた」や「新たに相手のいいところを見つけられた」「もう一回やりたい」などの記述があり，みんなで計画し準備したレクを楽しむことができたことが伺える。

さらに，実践後のアンケートからも，相手のいいところをみつけたの肯定的な意見が 93%となっており，準備から実践の活動の様子から，多くの生徒が新たに相手のいいところを見つけられていたことがわかる（図７）。

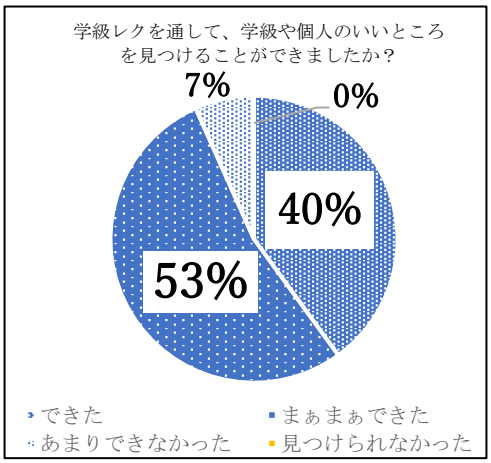


図７　実践後のアンケート

以上のことから，準備を含めた活動をみんなで取り組むことは，自分の役割を果たそうとする姿勢が自発的な活動となり，その活動をする姿から，それぞれのよさに気づき互いを認め合うことで，協働して活動する楽しさに気づけたと考える。さらに，話し合いで出てきた意見を反映するなど，みんなのことを思いやる活動をしたことで，人間関係の構築に繋がったと考える。

(3) 振り返りで次の活動へ繋げる工夫

個人の振り返りは，適宜行い加点評価（二重線）を意識し，決まったことに対して，どうするかを決めることが（波線）ができるようにした（表 10）。そうしたことで，加点評価の振り返りには「グループで進んで発言できた」や「進んで発表する人が増えた」など自分の成長に気づき，学級の変容に気づく記述が多くみられた。また，どうするかを決める振り返りでは，「みんなで協力する」や「役割を頑張りたい」「工夫をもっとよくしていきたい」など，実践へ向けて，自分の行動が明確となり，実践意欲の高まりに繋がったと考える。

表 10　振り返りの項目

本時	①話合いで頑張ったこと，学級のよかったとこと ②実践に向けて頑張りたいことややってみたいこと
事後	①実践を通して，感じたこと新たに発展したこと ②これからの学級活動で頑張りたいことややってみたいこと

また，実践に向けて「クラスの女子と喋れるようになる」と決めた生徒Ａは，表 11 のような流れの記述がみられた。これからも，議題の目的を果たそうとする行動から，新たな自分に気づき，これからの学校生活に気づきを生かしていこうとする様子が伺える。このように，実践を通し，交流することで人間関係が深められたことが，今後の学級生活においての意欲の高まりに繋がったと考える。

表 11　生徒Ａの振り返りの内容

本時	実践でがんばりたいこと このレクを通して，クラスの女子とも喋れるようにがんばる。
事後	実践を通して感じたこと 女子と仲良くしゃべれることに気付いた。 これからの学級活動で頑張りたいこと これからは，教室でもしゃべれるようにしたい。

さらに，一連の活動の様子をショートムービーにし，振り返りに書かれていた感想を載せ，みんなの気持ちを共有することで，これまでの活動を価値づけした。

加えて，これまでの話合い活動で決まったことを掲示し，達成状況を常に可視化できるようにした（図８）。特に，継続中なのか，達成したかを示した。

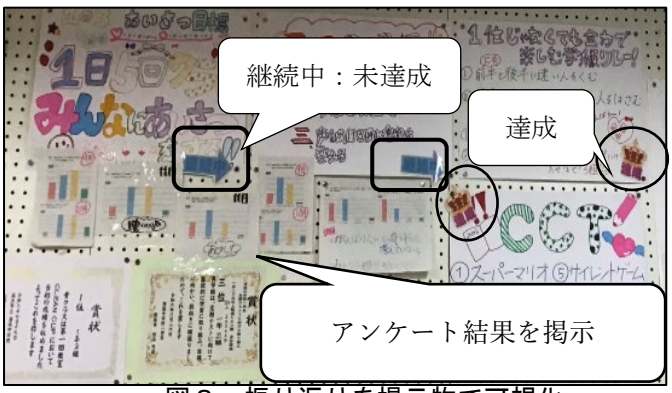


図８　振り返りを掲示物で可視化

これらは，実践の意識を高めることと，継続することを促すことを目的としている。また，学級活動のこれまでの歩みから，話合いの積み重ねを通して，自分たちの力でよりよい学級づくりをしていることを実感させることから，次への課題解決の意欲に繋がると考える。

以上のことから，振り返りから互いを認め合うことで，人間関係の構築ができたと考える。また，実践後の感想を共有したことで，協働的な活動のよさを実感できたと考える。これらの活動をすることで，達成感を実感させることが，次の活動の意欲に繋がっていくと考える。

(4) 一連の学習過程を踏まえた実践意欲について

これまでの議題と決定したことを表にまとめ，実践活動を個人(□)と全体(○)で分類した(表 12)。そして，それぞれで決まったことの実践意欲についてアンケートをした(図９)。

表 12　議題と決まったことの一覧(抜粋)

回	議題	決まったこと
2	活発なあいさつで盛り上げよう	□１日５人にあいさつをする
3	誰にでも声掛けできるような学級にするための心得を決めよう	□３つの心得
6	3 組がよりよい関係ができるようなＣＣＴをしよう	○クラスコミュケーションの内容
7	仲を深める学級レクをしよう	○ドッチボールと借り人競争

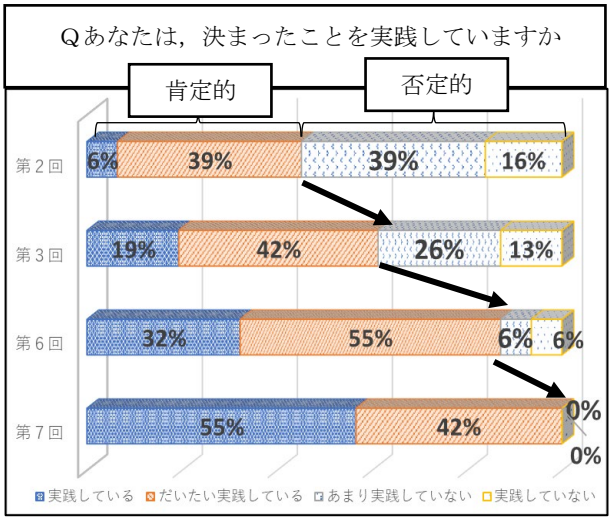
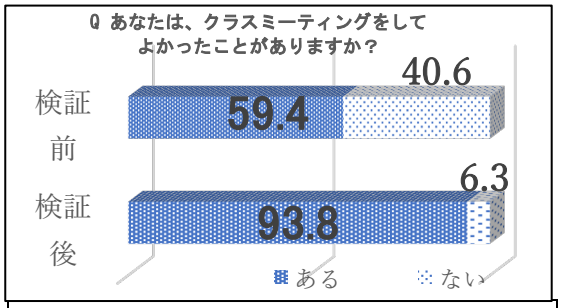


図９　実践意欲についてのアンケート

その結果，肯定的な意見を比較すると，全体で実践活動する場合の実践意欲が遥かに高いことがわかる。このことから，話合う議題は，ルール決めなど個人の意思や行動に左右される内容ではなく，みんなで活動することで改善が図れる内容にすることが，実践意欲を高めるには，効果的だと考える。他にも，話合うことのよさについてのアンケート結果が図 10 のようになった。これは，協働的な活動を通し，達成感を味わったことで，成果を実感することができたため，肯定的な意見が 34%も増えたと考える。

また，意見の変容があった生徒の意見からも，実践意欲の高まりと学級の変容を感じ取れたことが意見の変容の要因であることがわかる。



ない→あるになった生徒の意見

- (目的が)達成できた【提案者】
- 仲が深まったり，個人のよさをみつけられた。
- 挨拶の回数が増えた。
- 改善がみられた。
- 今回のレクが楽しかった。
- 決めたことを実行した。

図 10　話合い活動のよさについてのアンケート

このことからも，話合い活動のみをするのではなく，実践をみんなで取り組むことを通し，解決を図る活動が重要であることがわかる。その活動を繰り返し行うことが，一連の学習過程のサイクルを循環することになると考える。よって，一連の学習過程を踏まえた実践を行うことは，自発的，自治的な生徒を育成するためにも，重要であると考える。

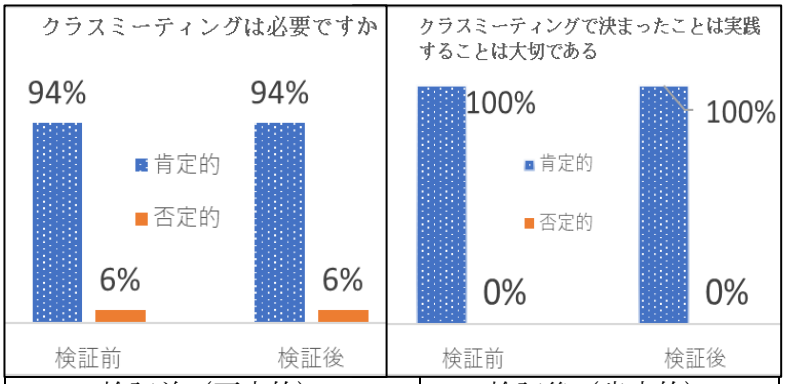
これらのことから，自発的な話合い活動を通しよりよい合意形成を図ることで，実践意欲を高めたと考える。そのため，実践でも自主的な活動が促され，協働的な活動に繋がったことが，多くの生徒が達成感を感じることができたと考える。

3　学級活動（１）の充実に向けて

(1) 話合い活動についてのアンケートから見えてきたこと

生徒に，話合い活動についてアンケートを実施したところ，図 11 の結果になった。この２つの項目は，検証前から肯定的な意見がとても高い。それは，小学校からの積み重ねた経験が意識を高めてきたものだと考える。

さらに，Ｑ１において否定的から肯定的な意見に変容があった生徒の理由から，実践意欲の低さから必要性を感じなかったが，みんなで取り組む実践によって達成感を味わったことが，意見の変容に繋がったと考えられる。



検証前（否定的）	検証後（肯定的）
話合いをしたけど，結局決まったことができていない。	3 組の状態とかを全員で意見を出し合って共有できる
クラスミーティングで決まったことを守る人もいるけど，全然守らない人も複数いるから，問題が解決しないなら必要ない。	よりよい学級にするために必要。

図 11　話合いの必要性と実践の大切さについてのアンケート

また，話合いの活動のよさや効果についての生徒の意見には，「楽しみながら学級をよりよくしていける」や「その人のよさや意見を知ることができる」と答えており，話合い活動の意義をよく理解していることが伺える。そして，これらの活動を通して，互いの意見を聞き，実践を通して，みんなでよりよい学級づくりをしていきたいという思いが伝わる意見が多くみられた。

そのため，教師は，学級づくりの一つの手段として，学級活動（１）を計画的に実践していく必要性を感じる。

(2) 自発的，自治的活動を支える教師の関わり

一連の学習過程において，集団活動であることを意識ながら取り組みをした。また，それぞれの場面での，教師の行動を吹き出しで表した(図 12)。このように，様々な場面で，生徒に寄り添い，コミュケーションを図ることで，生徒の頑張りに気づき，生徒との会話が弾み，関わりを持つ機会が増えた。生徒主体の活動である学級活動（１）だが，生徒の自発的，自治的な活動をサポートすることで，生徒との信頼関係を深められると考える。そのため，話合い活動の実践を積み重ねることが大切であると考える。

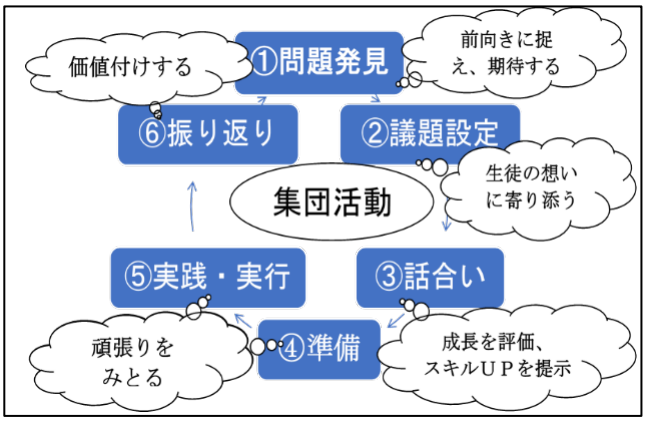


図 12　教師の関わり方

(3) 計画的な実践をするための時間確保

仮説１と２の検証から，一連の学習過程を踏まえた取り組みのためには，時間の確保が重要である。この研究においても，短学活・朝の活動の時間・給食時間・お昼休み等，学級で活用できる時間を見つけ，全員で取り組めるように工夫した。このことが，この研究の成果に繋がっていると考える。そのため，学級で活用できる時間の確保を，年間指導計画でしっかりと位置づけすることと，安易に学校全体の活動を学級活動の時間に取り入れないようにしていくと共に，誰で

も実践ができるようなシステムを確立する必要があると考える。

(4) 学習過程を踏まえた学級活動(１)の取り組みの成果

学習過程を踏まえた話合い活動をし，一連の流れを計画的に実施した結果，学級の安心感についての肯定的な意見が 23%伸びた(図 13)。生徒質問紙において，人間関係に不安感があった学級であるが，これらの活動を通して，お互いの意見の交流と学級への貢献体験，さらには互いに認め合うことができた成果だと考える。これらの活動を，積み重ねることがさらに関係を深め，学級が安心できる場所になるのではないかと考える。

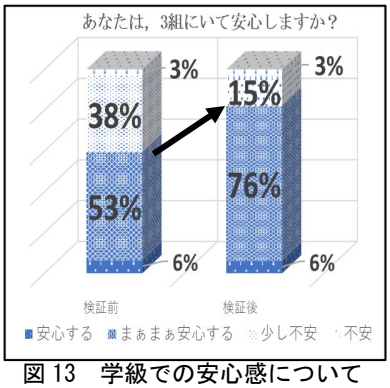


図 13　学級での安心感について

また，本学級の課題であった 20%差は，検証後には，１%未満となった。この結果からも，学習過程を踏まえた学級活動(１)の実践の成果がみられたと考える(図 14)。そして，これらの活動を，計画的に実践することでより効果を発揮するであろうと考える。

これらのことから，学級活動(１)の計画的な実践は，小学校の経験を生かしつつ，時間を確保し，一連の学習過程を踏まえた実践を積み重ねることで，自発的，自治的に活動する生徒の育成に繋がると考える。

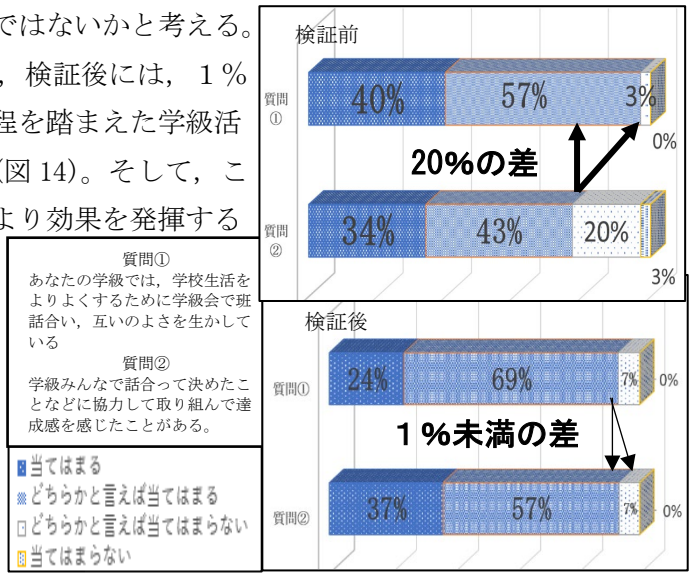


図 14　話合いのよさと達成感のアンケート結果

Ⅸ　成果と課題

１　成果

(1) 議題設定の工夫が，学習過程を踏まえた実践の柱となり，生徒が求める議題を取り上げたことが，目的意識や実践意欲を高めた。

(2) 学習過程を踏まえたことと活動時間を確保したことで，生徒が議題について自分事と捉え，議題に向き合い自分の意見を持ったことが，協働的な活動に繋がった。

２　課題

(1) 学習過程を踏まえた実践を計画的にするためには，学級で活用できる時間を工夫していく。

(2) 学級活動の充実には，積み重ねた経験を生かしていくことが重要であるため，小中での系統的な指導の確立が必要である。

【主な参考・引用文献】

・須永義信（2024)『主体的な子ども、自治的なクラスを育む！学級会』　明治図書出版株式会社
・杉田洋（2013)『自分を鍛え、集団を創る！特別活動の教育技術』　小学館
・文部科学省（2017)『中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説　特別活動編』
・文部科学省/国立教育政策研究所教育課程研究センター（2019)
『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』
・赤坂真二（2016)『スペシャリスト直伝！成功する自治的集団を育てる学級づくりの極意』
明治図書出版株式会社
・杉田洋/稲垣孝章（2020)『特別活動で、日本の教育が変わる！特活力で、自己肯定感を高める』
小学館
・河村茂雄（2018)『特別活動の理論と実際』　株式会社図書文化社
・杉田洋（2009)『よりよい人間関係を築く特別活動』　株式会社図書文化社